

第Ⅱ章・交通課題の設定

本章は、現在、日常生活や産業等に支障をきたしている交通問題への対応や高齢社会、地球環境の保全、中心市街地の活性化などの計画策定に際して配慮すべき視点から、分野別に課題を設定し、その中の個別の課題を示します。

分野別課題

分野別課題 1 いま起きている交通問題への対応

- (1) 通勤時間帯を中心とした交通混雑の解消
- (2) 路線バスの利便性の向上
- (3) 違法路上駐輪の削減
- (4) 交通安全の向上

分野別課題 2 将来のまちづくりを支える交通基盤整備

分野別課題 3 高齢社会への対応（高齢者等が安心して外出できる交通環境の整備）

分野別課題 4 環境負荷の低減（温室効果ガスの排出量の削減）

分野別課題 5 中心市街地の活性化

- (1) 中心市街地への行きやすさの向上
- (2) 中心市街地内での移動しやすさの向上

1. いま起きている交通問題への対応

(1) 通勤時間帯を中心とした交通混雑の解消

分野別課題 1 いま起きている交通問題への対応 通勤時間帯を中心とした交通混雑の解消

- ① 道路混雑の解消を図るための道路等の整備が必要です
- ② 過度な自動車利用の転換を促すとともに、平塚駅周辺の交通円滑化が必要です

● 朝の通勤時間帯では、平塚駅を中心として交通が混雑するとともに、放射状に配置された道路を主体に渋滞が発生しています。特に平塚駅西口では、送迎自動車やタクシー乗場、歩行者との錯綜により、自転車の走行環境が低下しており、その対策が必要です。



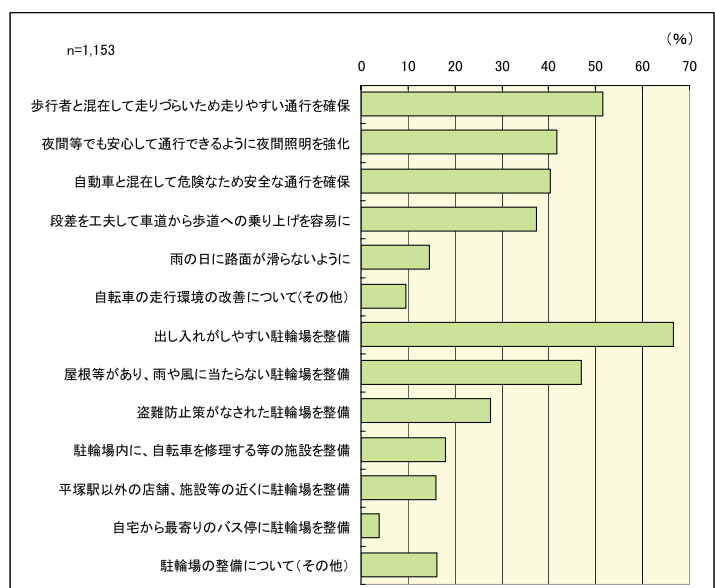
朝の通勤時間帯における平塚駅西口の交通混雑の状況

● 道路渋滞の解消を図るため、道路整備等の推進を図るとともに、過度な自動車利用から他の交通手段への転換を促し、鉄道、路線バス、自転車の利用しやすさの向上を図ることが必要です。

● 都市計画道路^{*}の整備率は約6割に留まっています。財政状況はさらに厳しくなることが予測されている中、今ある道路を有効に活用するとともに、未着手路線の必要性を検証し、「選択と集中」により効率的、効果的にその整備推進を図ることが必要です。また、新たな道路整備に比べ、短期間での対応が可能なボトルネック交差点^{**}の改良推進を図ることが課題です。

● 平塚駅周辺では、道路整備が概ね完了していることから、交通処理能力にあった円滑化対策が必要であり、平塚駅への自動車の送迎利用や通勤自動車に対し、他の交通への転換を促していきます。そのため、路線バスの定時性、速達性等の向上、自転車の走行環境の向上や自転車等駐車場の整備推進を図るとともに、自動車利用の仕方の工夫や行動の変化の促進を図ることが課題です。

自転車の利用者が望む改善点



資料：自転車利用者アンケート調査^{*}

通勤時間帯を中心とした交通混雑の解消に向けた主な個別課題

① 道路混雑の解消を図るための道路等の整備

- 効率的、効果的な都市計画道路等の整備推進

- ボトルネック交差点*の改良推進

② 過度な自動車利用の転換促進と、平塚駅周辺の交通円滑化

- 鉄道の利便性の向上

- 路線バスの定時性、速達性等の向上を図るための運行の効率化や走行環境の向上

- 自動車利用の仕方の工夫や行動の変化の促進

- 自転車の走行環境の向上

- 自転車等駐車場の整備推進

(2) 路線バスの利便性の向上

分野別課題 1 いま起きている交通問題への対応 路線バスの利便性の向上

- ① 道路渋滞の解消を図るための道路等の整備が必要です
- ② バスのネットワークの強化、利用しやすさの向上が必要です

- 道路渋滞に伴い、路線バスの定時性、速達性が低下しています。路線バス利用者アンケート調査[※]結果では約4割の方が、自宅から最寄りのバス停で時刻表どおりバスが来ないと回答しており、その対策が必要です。
- 運行距離が長い路線では、道路渋滞の影響を受けやすくなっています。都市計画道路[※]等の整備推進、ボトルネック交差点[※]の改良推進により道路渋滞の解消を進めるとともに、道路渋滞の影響を受けないよう運行の効率化や走行環境の向上を図ることが課題です。
- バス利用者アンケートでは、路線バスをより利用しやすくするための改善点として、「バス停でバスの実際の到着時間を提供する」が上位にランクされているなど、バス停での待合い環境の向上やリアルタイムの運行情報の提供が課題です。

路線バスの利便性の向上に向けた主な個別課題

① 道路渋滞の解消を図るための道路等の整備

- 効率的、効果的な都市計画道路等の整備推進
- ボトルネック交差点の改良推進

② バスのネットワークの強化、利用しやすさの向上

- 路線バスの定時性、速達性の向上を図るための運行の効率化や走行環境の向上
- 路線バスの待合い環境の向上
- 路線バスの情報提供の強化

(3) 違法路上駐輪の削減

分野別課題 1 いま起きている交通問題への対応 違法路上駐輪の削減

① 路上駐輪対策が必要です

- 紅谷町のパールロードなどを中心に、違法路上駐輪が発生し、歩行者通行の妨げになるとともにまちの景観を低下させています。自転車等駐車場の不足に加え、買い物客の路上駐輪、利用者の交通規則違反、マナーの低下などが原因であり、その対策が必要です。自転車や原付バイクの違法路上駐輪に対しては、自転車等駐車場の整備推進を図るとともに、買い物客の駐輪対策、交通ルールの遵守やマナーの向上に向けた啓発活動の強化が課題です。また、特に平塚駅西口では、自転車の走行環境が低下しており、自転車等駐車場の整備とあわせた走行環境の向上が課題です。

違法路上駐輪の削減に向けた主な個別課題

① 違法路上駐輪対策

- 自転車の走行環境の向上
- 自転車等駐車場の整備推進
- 中心市街地内の買い物客の駐輪対策
- 交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた啓発活動の強化

(4) 交通安全の向上

分野別課題 1 いま起きている交通問題への対応 交通安全の向上

- ① 自転車、歩行者の安全性の向上が必要です
- ② 通学路の安全性の向上が必要です

- 自転車に関する交通事故は、県下の市町村に比べ、その発生は非常に高い状況です。事故の主な原因は交差点での不十分な安全確認、一時不停止などであり、その対策が必要です。
- 自転車等の交通事故を防止し、走行環境の向上を図るとともに、歩行者の安全性を高めるため、交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた啓発活動の強化が課題です。
- 高齢社会への対応等に向け、歩行者や今後利用の増加が予測されているシニアカー等による身近な移動を支えるため、自動車交通量の多い主要な道路の歩道整備などが課題です。
- あんしん歩行エリア*の地域や、旧道など歩道が整備されていない道路においても比較的多くの路線バスが運行されている地域があり、安全な通行空間の確保が課題です。
- 通学路においては、道路標示が損耗し消えかけている箇所の補修などの安全対策が課題です。



シニアカーの通行状況（萩原八幡線）

交通安全の向上に向けた主な個別課題

① 自転車、歩行者の交通安全の向上

- 自転車の走行環境の向上
- 自動車交通量の多い主要な道路の歩道整備
- 交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた啓発活動の強化

② 通学路の安全性の向上

- 通学路の安全対策

2. 将来のまちづくりを支える交通基盤整備

分野別課題 2 将来のまちづくりを支える交通基盤整備

- ① 将来のまちづくりを支える道路等の整備が必要です
- ② 交通ネットワークの整備が必要です

- 将来のまちづくりは、平塚駅周辺の中心市街地を南の核に、ツインシティを北の核に位置づけ、この2つの核をつなぐための南北都市軸、西部地域と南北2つの核をつなぐ軸の形成をめざしています。
- 現況では市内の自動車交通の約65%が市内に目的を持たない通過交通や市外との行き来の交通です。まちづくりを支え、都市力を高めていくためには、広域交通体系との連携、産業機能の拡充を図る交通網の強化が必要です。
- ツインシティ等、新たなまちづくりや開発計画で、公共交通のより使いやすいまちづくりの推進が課題です。また、広域交通体系との連携に向け、鉄道の利便性の向上とインターチェンジや市外とを結ぶ都市計画道路^{*}等の整備推進が課題です。
- 交通軸の形成や産業機能の拡充を図るため、自動車専用道路インターチェンジへの連絡や道路渋滞を緩和させる都市計画道路等の整備推進、路線バスの定時性、速達性等の向上、交通相互のスムーズな連絡を図るため交通結節点^{*}の強化が課題です。
- 災害時の避難、救援、消防活動、火災の延焼防止などの都市防災機能の向上を図るため、都市計画道路等の整備推進や老朽化した交通施設への対応が課題です。

将来のまちづくりを支える交通基盤整備に向けた主な個別課題

① 将来のまちづくりを支える道路等の整備

- 効率的、効果的な都市計画道路等の整備推進

- 老朽化した交通施設の対応

② 交通ネットワークの整備

- 公共交通のより使いやすいまちづくりの推進

- 鉄道の利便性の向上

- 路線バスの定時性、速達性等の向上を図るための運行の効率化や走行環境の向上

- 交通結節点の強化

3. 高齢社会への対応(高齢者等が安心して外出できる交通環境の整備)

分野別課題 3 高齢社会への対応(高齢者等が安心して外出できる交通環境の整備)

- ① 歩行者や自転車の安全な通行空間の確保が必要です
- ② 無理のない交通手段の選択性の向上が必要です

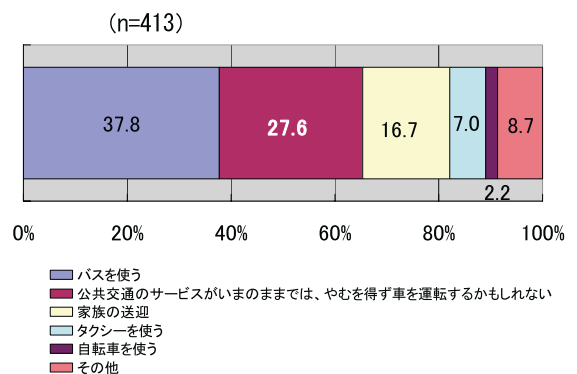
- 本市では、概ね10年後には4人に1人が高齢者となることが予測されています。高齢者の健康増進を図るとともに、地域生活圏[※]の形成に向け、地域コミュニティや都市の経済活動を維持、向上させていくため、高齢者が安心して外出できる交通環境の整備が必要です。
- 高齢者の交通手段は、徒歩や自転車などが主体であり、今後シニアカー等の利用が増えることも予測されます。地域生活圏を支え安全でゆとりある通行空間の整備が必要であり、中心市街地での歩行者と自転車の安全で快適な通行空間の確保、自動車交通量の多い主要な道路での自転車の走行環境の向上が課題です。

●より大きな圏域への日常の動きを支える交通は現在、路線バスや自動車が利用されています。駐車場利用者アンケート調査[※]結果では、自動車を安全に運転できるのは、平均で約70歳までと回答しています。それ以降頼りにする交通手段は、「路線バス」が最も多いものの、約3割の方は、「公共交通のサービスが今のままでは、やむを得ず車を運転するかもしれない」と回答しています。高齢者が無理なく交通手段を選択できるように、路線バスやタクシー等の利用しやすさを高めることが課題です。

- 高齢者の方が望む路線バスをより利用しやすくする

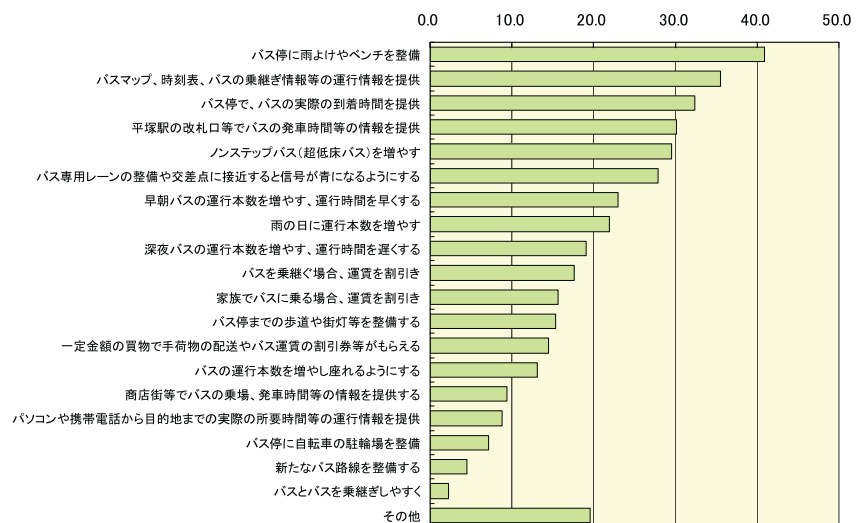
ための改善点は、「バス停に雨よけやベンチを整備」、「バスマップ、時刻表、バスの乗継ぎ情報等の運行情報の提供」、「バス停でバスの実際の到着時間を提供」、「ノンステップバス[※]を増やす」などが上位にランクされています。現在市内には約300箇所のバス停がありますが、ベンチや上屋などの待合い環境が整備されたバス停は1割にも満たな

車を運転できなくなった後頼りにする交通手段



資料：駐車場利用者アンケート調査

60歳以上の方が望むバスを利用しやすくするための改善点



資料：路線バス利用者アンケート調査[※]

い状況です。

- 現在、自動車を利用されている方が望む路線バスをより利用しやすくするための改善点は、路線バスを利用されている方が望む改善点に加え「手荷物の配送サービス等」が上位にランクされており、その対応が課題です。
- 高齢化の進展に伴い、バス停まで移動しづらくなることが予測され、全市的に公共交通の不便地区が拡大する恐れがあります。現在の路線バス網を活用し、公共交通のより使いやすいまちづくりの推進が課題です。

高齢社会への対応に向けた主な個別課題

① 歩行者や自転車の安全な通行空間の確保

- 効率的、効果的な都市計画道路等の整備推進
- 中心市街地での歩行者と自転車の安全で快適な通行空間の確保
- 自動車交通量の多い主要な道路の歩道整備
- 自転車の走行環境の向上

② 無理のない交通手段の選択性の向上

- 交通バリアフリー化の推進
- 路線バスの待合い環境の向上
- 路線バスの情報提供の強化
- 手荷物の配送サービスの対応等
- 交通結節点の強化
- 公共交通のより使いやすいまちづくりの推進

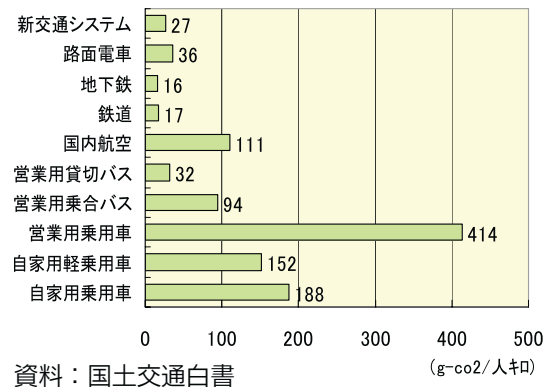
4. 環境負荷の低減（温室効果ガスの排出量の削減）

分野別課題 4 環境負荷の低減（温室効果ガスの排出量の削減）

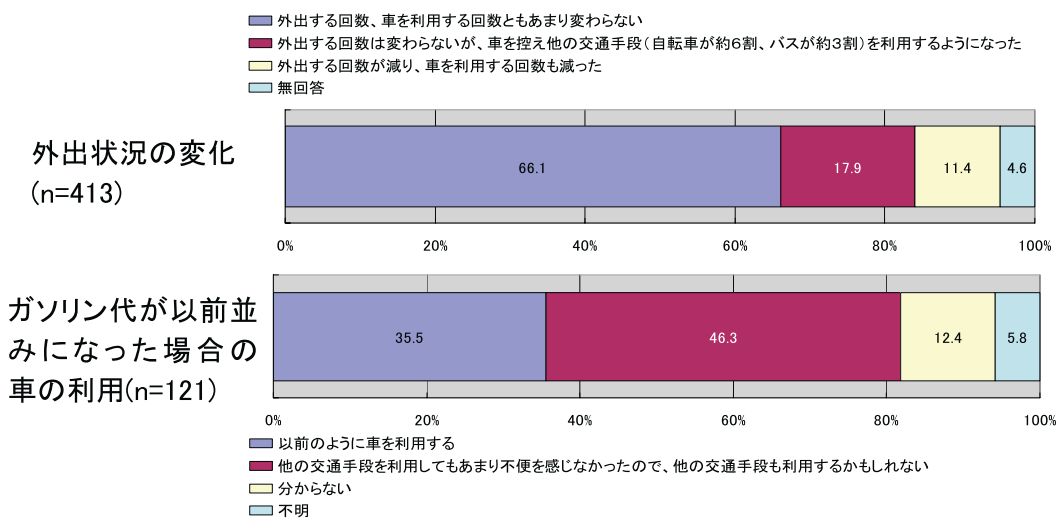
- ① 道路渋滞の解消を図るため道路等の整備が必要です
- ② 過度な自動車利用の転換を促すことが必要です
- ③ 低公害車の利用を促すことが必要です

- 地球温暖化の防止に向け、二酸化炭素等の温室効果ガス[※]の排出量を削減するため、道路渋滞の解消を図るとともに、環境にやさしい交通体系の実現が不可欠です。
- 道路渋滞の解消を図るため、現在計画されている都市計画道路[※]の整備推進やボトルネック交差点[※]の改良推進を図ることが課題です。
- 駐車場利用者アンケート調査[※]結果では、回答者の約3割の方が、ガソリン代が高くなったことにより、車の利用を控え、自転車や路線バスなどの他の交通手段を利用したと回答しています。このうち、約5割の方は、ガソリン代が元に戻っても他の交通手段を選択する可能性がある[※]と回答しており、自動車利用者の約2割の方は、他の交通手段への転換の可能性[※]があることが分かりました。

1人を1km運ぶのに排出する二酸化炭素の比較（平成12年度）



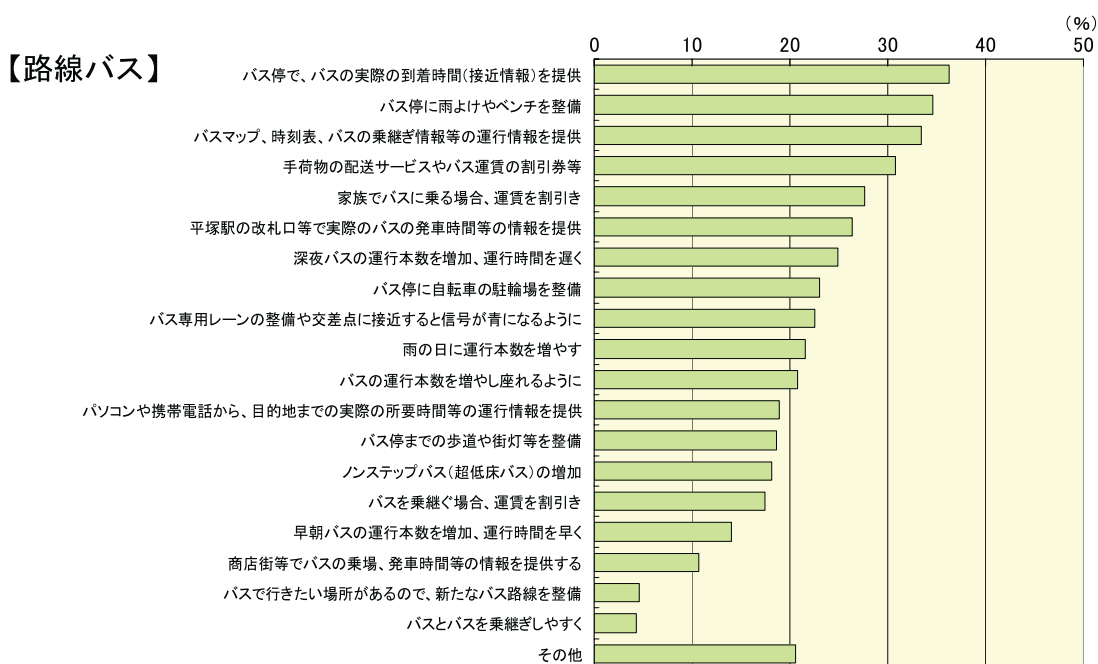
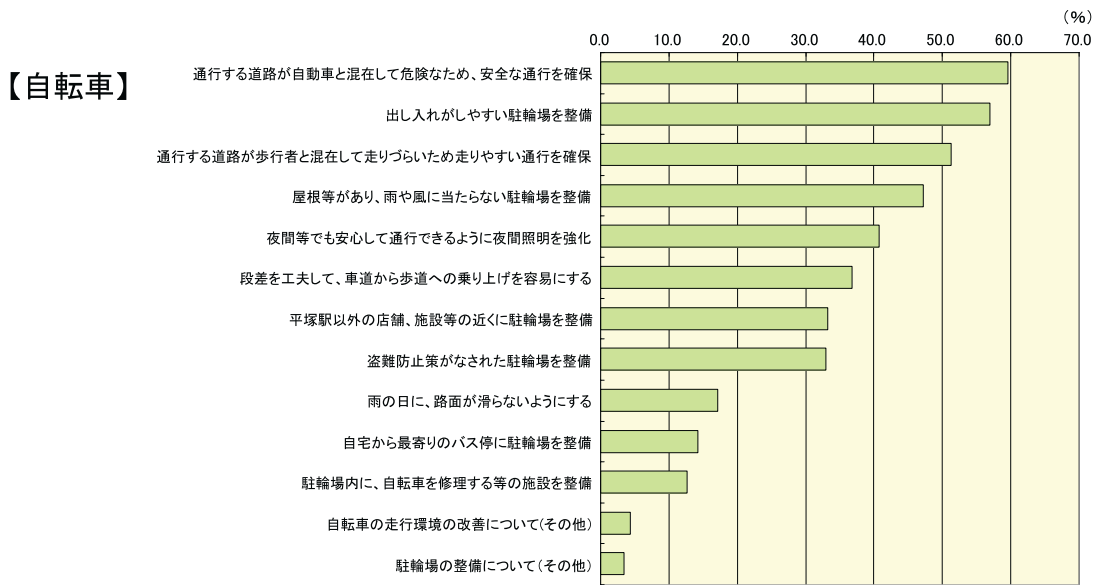
自動車利用者のガソリン代が高くなったことによる外出状況の変化と、ガソリン代が以前並みになった場合の車の利用に関して



資料：駐車場利用者アンケート調査

- こうした結果から、自動車利用を控える行動を促すことが必要であり、公共交通のより使いやすいまちづくりの推進、交通結節点の強化、環境教育等の啓発活動、自動車利用の仕方の工夫や行動意識の変化の促進を図ることが課題です。
- 駐車場利用者アンケート調査※結果では、自転車を利用しやすくするための改善点として、「通行する道路が自動車と混在して危険なため、安全な通行空間の確保」や「出し入れしやすい自転車等駐車場の整備」が上位にランクされており、その対応が課題です。
- 同様に、路線バスをより利用しやすくするための改善点では、「バス停でバスの実際の到着時間を提供」が最も多く、次に「バス停に雨よけやベンチを整備」、「バスマップ、時刻表、バスの乗継ぎ情報等の運行情報の提供」、「手荷物の配送サービスやバス運賃等の割引」などが上位にランクされており、その対応が課題です。
- 低公害型自動車の導入促進を図るため、ハイブリッド車や電気自動車の利用促進が課題です。

自動車利用者が望む他の交通の改善点



資料：駐車場利用者アンケート調査

環境負荷の低減（温室効果ガスの排出量の削減）に向けた主な個別課題

① 道路渋滞の解消を図るための道路等の整備

● 効率的、効果的な都市計画道路等の整備推進

● ボトルネック交差点の改良推進

② 過度な自動車利用の転換促進

● 公共交通のより使いやすいまちづくりの推進

● 環境教育等の啓発活動の充実

● 自動車の利用の仕方の工夫や行動の変化の促進

● 自転車の走行環境の向上

● 自転車等駐車場の整備推進

● 鉄道の利便性の向上

● 路線バスの定時性、速達性の向上を図るための運行の効率化や走行環境の向上

● 交通結節点の強化

● 路線バスの待合い環境の向上

● 路線バスの情報提供の強化

● 手荷物の配送サービスの対応等

③ 低公害車の利用促進

● ハイブリッド車や電気自動車の利用促進

5. 中心市街地の活性化

(1) 中心市街地への行きやすさの向上

分野別課題 5 中心市街地の活性化 中心市街地への行きやすさの向上

① 路線バス ② 自転車 ③ 自動車の利用しやすさの向上が必要です

- 路線バス利用者アンケート調査^{*}結果や駐車場利用者アンケート調査結果では、買物目的での路線バスをより利用しやすくする改善点として、「バス停に雨よけやベンチを整備」、「バスマップ、時刻表、バスの乗継ぎ情報等の運行情報の提供」、「バス停でバスの実際の到着時間を提供」、「手荷物の配送サービスやバス運賃等の割引」などが上位にランクされていることから、その対応が課題です。
- 自転車利用者アンケート調査^{*}や駐車場利用者アンケート調査^{*}結果では、買物目的での自転車を利用しやすくする改善点として、「自転車等駐車場の整備」が最も多く、「安全な通行空間の確保」などが上位にランクされていることから、その対応が課題です。
- 平塚市商業アンケート調査^{*}結果では、駐車場の利用に関して「駐車料金が高い」、「駐車場がいつも満車で、すぐに駐車できない」などが上位にランクされています。平塚駅周辺の駐車場は、総量的には足りていますが、特定の駐車場への集中が生じています。そこで、既存の駐車場を活かし、駐車場の利便性の向上を図ることが課題です。

中心市街地への行きやすさの向上に向けた主な個別課題

① 路線バスの利用しやすさの向上

- 公共交通のより使いやすいまちづくりの推進
- 路線バスの定時性、速達性等の向上を図るための運行の効率化や走行環境の向上
- 路線バスの待合い環境の向上
- 路線バスの情報提供の強化
- 手荷物の配送サービスの対応等

② 自転車の利用しやすさの向上

- 中心市街地内の買物客の駐輪対策
- 自転車の走行環境の向上

③ 自動車の利用しやすさの向上

- 自動車は既存ストックを活かし、駐車場の利便性の向上

(2) 中心市街地内での移動しやすさの向上

分野別課題 5 中心市街地の活性化 中心市街地内での移動しやすさの向上

① 歩行者と自転車の安全な通行空間の確保

- 平塚市商業アンケート調査[※]結果による中心市街地を歩いた感想では、「快適とはいえない」が約4割を占めています。その原因は、違法路上駐輪や自転車の走行などの混在が考えられ、歩行者と自転車の安全で快適な通行空間の確保が課題です。
- 違法路上駐輪に対しては、自転車等駐車場の整備推進を図るとともに、買物客の駐輪対策が課題です。
- 歩行者と自転車の混在に対しては、交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた啓発活動の強化が課題です。



紅谷町のパールロードの状況

中心市街地内での移動しやすさの向上に向けた主な個別課題

① 歩行者と自転車の安全な通行空間の確保

- 中心市街地内の買物客の駐輪対策
- 中心市街地内の歩行者と自転車の安全で快適な通行空間の確保
- 交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた啓発活動の強化